

高2 沖縄修学旅行（3月5～9日）から 全員で戻ってこることができました

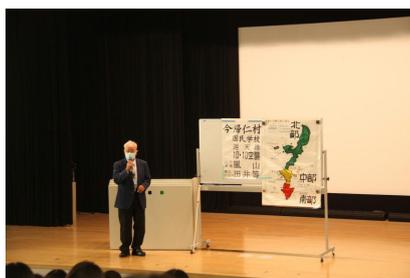
3月5日の第1陣は朝7時半集合、ANA第1便で出発。第2陣は朝8時集合、JAL第1便で出発予定でした。集まってみると日本旅行の添乗員の方から、今日の函館空港からのフライトは天候悪化のため、ANA・JALとも第1便だけということでした。（前日に2便以降の欠航が決まっていたそうです。）これは、神様のお守り・支えがある旅だと確信し、感謝しました。函館空港は、やや風が強かったですが、飛行機は無事離陸しました。晴天の羽田で乗り継ぎ、やはり晴天の那覇空港に到着しました。

最初の見学地は「瀬長島ウミカジテラス」でした。最近出来た観光地で、夕日がとてもきれいなので地元の方が訪れていました。修学旅行生は私たち以外はいませんでした。白い建物が多く、地中海沿岸の雰囲気がありました。初日の夜の発熱が心配でしたが、皆さん元気で朝を迎えました。

2日目は天気も良く平和学習で、クラスごとガマ見学をしました。その時のバスガイドさんは、6年前に修学旅行で沖縄を訪れた英語科の生徒さん達がガイドさんに御礼にプレゼントした「寄せ書きTシャツ」を持ってきました。長年お世話になり、毎年良い交流が行われているのだとしみじみ感じました。その日の見学地の最初はガマと呼ばれる



「轟（とどろき）壕」でした。ガマは戦時中、避難所に使用された洞穴です。ガマのなかは天井が低く、急峻で、長い距離を背中を丸めながら下っていきましたが、途中滑るところもあり、そこでは優しい生徒さん2人が老体をいたわるように私の手を引いてくれました。最深部でガマガイドさんの指示で懐中電灯の明かりを消すと「真っ暗」、目の前にかざした手も全く見えません。当時、沖縄の人達がこのようななかで息を潜めて生活していたのだと思うと本当に大変だったと実感しました。そのあと「ひめゆり記念資料館」に移動し、当時の女子高校生がどのように戦争に奉仕し、最後は自害せざるをえなかったかを学びました。昼は隣の「琉球の館」で食事を



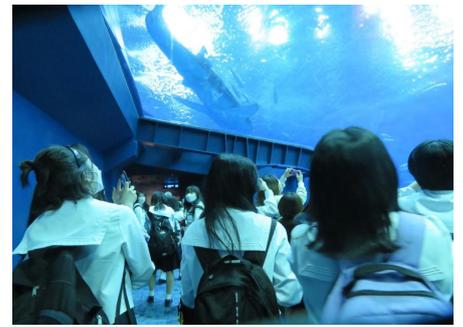
とりました。そのお店はお土産屋さんも兼ねていましたが、久しぶりに店をあげたそうです。遺愛の生徒さん達がたくさんお土産を買ってくれるものですから本当に嬉しそうでした。次ぎに訪れたのは、「沖縄県平和祈念公園」で、平和の礎（いしじ）を見学し、沖縄戦体験講話を聞き、平和祈念資料館を見学しました。夕食時には、私の方から沖縄出身留学生（当時、沖縄は米国領）外間（与儀）久子さんが1955年から2年間、当時の遺愛生全員に支えられながら遺愛生活をおくったという話をさせていただきました。外間さんも小学校に入学した日の4月1日に米軍が上陸し、家族で捕虜となり辛い経験をしていました。沖縄の平和学習をしっかりとした2日目でした。

3日目は、曇りのち雨。「美ら海水族館」見学と「オクマプライベートリゾート」を体験しました。午後ビーチ体験を予定していましたが、風雨が強く30分

程度で終了し、リゾートホテル体験にたっぷり時間を費やし、楽しい一時でした。

4日目は快晴。「国際通り」を中心に自主研修をしました。いつもでしたら「国際通り」は、修学旅行生でごったがえすのですが、遺愛生だけでした。沖縄の旅はほとんど遺愛の貸切状態でした。ホテルもバスもお土産屋さんも感染対策に本当に気を遣っていました。

5日目は午前中「おきなわワールド」で、鍾乳洞、熱帯フルーツ園、幸運白へび体験などを楽しみ、空港に向かいました。最終日に1人発熱をした生徒がいましたが、強い沖縄の日差しにデリケートな肌が焼かれたことによる発熱で、午前中看護師さんとともにホテル待機



那覇空港とお別れ

待機のうち空港で皆さんと合流しました。空港保安検査場のサーモグラフィーチェック時には熱が下がり無事通過し、全員で函館に戻ることができました。

大丈夫だろうとは思っていましたが、生徒さんの意識の高さ、保護者のご理解、引率の担任団の指導、そして神様の支えと導きにより素晴らしい修学旅行になったことを心から感謝します。

2022年3月10日